

## IV . 進級の要件

### 1. 2年進級条件

1年次必修科目20科目のうち18科目以上を修得した者は2年に進級できる。

進級できなかった者は、自身の入学年度にかかわらず、その年に入学した学生のカリキュラムにしたがって授業科目を履修し、進級・卒業要件を充足していくこととなる。

また、再履修に関しては11ページ「V 授業科目の履修 5. 再履修」に従うこととする。

1年次必修科目 (20科目)	
Freshman English	Integrated Skills English A
基礎化学	情報リテラシー
入門統計推計学	有機化学1
基礎物理化学	有機化学1 演習
生化学1	生化学2
薬学概論	分析科学
ヒューマンコミュニケーション1 演習	物理化学
早期体験学習	ヒューマンコミュニケーション2 演習
無機化学	機能形態学1
	薬学倫理
	健康スポーツ1

### 2. 3年進級条件

2年次必修科目23科目のうち21科目以上を修得し、かつ2年次に行う「物理・分析科学実習」「有機化学実習」「有機スペクトル解析実習」「生物系実習」「生薬学実習」を全て修得しなければならない。再履修に関しては2年進級条件に準ずる。

2年次必修科目 (23科目)	
Integrated Skills English B	Integrated Skills English C
生薬学1	生薬学2
生命物理化学	有機化学3
有機化学2	有機化学3 演習
有機化学2 演習	スペクトル解析
微生物学	有機スペクトル解析
臨床分析科学	生物有機化学
生化学3	薬剤学2
健康と栄養	環境と健康1
機能形態学2	有機合成化学
薬剤学1	薬理学1
免疫学	

### 3. 4年進級条件

3年次必修科目23科目のうち21科目以上を修得し、かつ3年次に行う「薬理学実習」「衛生薬学実習」「薬剤学実習」を全て修得しなければならない。再履修に関しては2年進級条件に準ずる。

3年次必修科目（23科目）	
分子細胞生物学	レギュラトリーサイエンス
生物統計学	薬剤師論
薬理学2	臨床統計学
疾病と病態	医療人入門
環境と健康2	バイオ医薬品
医薬化学	総合医療薬学1
再生医療学	総合医療薬学2
製剤学1	総合医療薬学3
薬物治療学	総合医療薬学4
	製剤学2
	疾病の予防
	山口県地域医療学1
	医療安全学1
	科学英語A

### 4. 5年進級条件

4年終了時までには下表の単位を修得しなければ5年に進級できない。

また、4年次に修得する必要がある授業科目については、別途ガイダンス等で周知する。

区分		単位	合計
一般科目	外国語	必修	5単位
		選択	4単位
	人間科学分野	必修	2単位
		選択	4単位
基礎科目	基幹基礎	必修	6単位
	専門基礎	必修	2単位
専門科目	1年	必修	26単位
	2年	必修	45単位
	3年	必修	47単位
	4年	必修	28単位
			計169単位

## 5. 薬学共用試験受験資格

4年生以上の在籍者は、薬学共用試験（※）の受験試験を与えられます。

なお、薬学共用試験に合格しても、5年進級条件を満たさなければ進級できないので注意してください。

### ※薬学共用試験（CBT\*、OSCE\*）について

まだ薬剤師免許を持たない薬学生が病院や薬局の医療現場で実習（医療行為）を行ってよだけの基本的知識、技能、態度を身に付け、その能力と適正が全国的に一定のレベルに達していることを検証するための試験（薬学生の行為の適法性の確認）。薬剤師養成に関与する全ての薬系大学が標準評価システムを共用して行うもので、“CBT”と“OSCE”の2つの試験が実施されます。

### \*CBT（Computer-Based Testing）

コンピュータを用いて、4年次末までに習得した「物理・化学・生物系薬学」、「医療薬学」、「基本事項」、「薬学と社会」、「衛生薬学」、「薬学臨床」に関する全ての専門必修科目の知識レベルを試験する。

### \*OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）

患者・来局者対応、薬剤の調製、調剤監査、無菌操作の実践、情報の提供など幾つかの場面設定（ステーション）における薬剤師としての学生の対応や実技から、技能や態度を試験する。

### 1. クラス分け授業

- (1) 授業科目によっては、クラス分けして授業が実施されます。受講生数によって単純にクラス分けすることもあるが、学期始めのプレースメントテストの結果によって習熟度別にクラス分けすることもあります。原則として、クラスの変更はできません。
- (2) クラス名称は、アルファベットによってAクラス、Bクラス等、あるいは担当教員名を付す場合があります。

### 2. 実験実習の授業

- (1) 本学では、特に、実験実習授業を重視したカリキュラムのもとで学年ごとに実験や実習が開講されています。講義や演習に比べて2倍以上の時間をかけて学習教育目標を達成することになります。参加姿勢が問われる授業科目であるので、三分の一以上を欠席すると、レポート提出も不可能となることと併せて、学習教育目標を達成することが困難となります。修得するためには、必ず実験実習に出席しなければなりません。
- (2) 実験実習の開始時に行われる課題や方法の説明について、実験テキストを読み予習しておくことで理解しやすく実験や実習に積極的に取り組みます。また、実験実習を行なう時の各自の役割分担を把握し、協力して実験実習を行います。得られた結果は解析してレポートにまとめ期限までに提出します。
- (3) 学期始めにグループ分けやレポート提出などについてのガイダンスがあります。

### 3. シラバス（授業計画）

シラバス（syllabus）には、授業概要、達成目標、成績評価方法、使用テキストと参考書、履修上の注意、授業計画が書かれています。各自の学修計画を立てる上で、毎日の予習・復習を行うための参考となる情報に溢れているので、履修登録する前に目を通しておくことが必要です。

- (1) 授業概要は、授業によって学習できる講義や演習、実験や実習の要旨が書かれています。第1回目の授業日には、授業概要の内容説明が行われ、この授業科目で達成できる学習教育目標や授業計画を知ることができます。
- (2) 達成目標は、授業によって修得できる学習教育目標の達成程度を知ることができます。卒業要件を満たす単位の修得によって、学部学科ごとに定められている学習教育目標を達成することができます。

- (3) 使用テキストと参考書は、授業内容の理解と自主的に学習するために必須のものです。受講する前に、テキストを読み理解不明瞭なところを把握して授業に臨むことを薦めます。授業中には、テキストと共にノートを用意して授業内容を筆記しておくことで復習や試験に役立ちます。なお、シラバスに記載されたテキストと参考書はすべて図書館にて閲覧することができます。
- (4) 成績評価方法は、学習教育目標の達成度や成績の評価方法が書かれています。試験、レポート、演習・小問、参加姿勢で評価します。たとえば「試験60点、演習・小問40点の100点で評価する」等です。さらに、必修科目については、定期試験の成績発表後に成績不良であった者に対して行う再試験の有無も明記されています。
- (5) 授業計画には、授業内容が記されています。授業内容の進行状況を把握し、予習や復習するのに役立ちます。また、授業概要と共に授業計画内容を読むことにより内容全体を把握することができます。
- (6) 主なモデル・コアカリキュラムの項目には、各授業回に対応するモデル・コアカリキュラムのコードが記されています。
- (7) 履修上の注意の欄には、授業科目を履修する上で必要となる事項が書かれています。

#### 4. 履修申告（履修科目の登録）

- (1) 授業科目を履修するためには、履修申告し登録しなければなりません。履修申告をしていない授業科目の受講・受験は原則無効とされるので、単位の授与が出来ません。
- (2) 履修申告のための関係書類は、年度始めに配布されます。履修申告のためには、これらの書類をよく目を通しておくことが必要です。
- (3) 申告期間については掲示で伝達します。期間外の申告は、休学を除いて受理されません。なお、UNIPA履修システムによる履修申告については年度始めにガイダンスが実施されますので、必ず出席してください。
- (4) 必修科目の履修は、必ず下級学年の必修科目から履修申告してください。

#### 5. 再履修

不合格となった授業科目を再度履修することを再履修といいます。

- (1) 不合格となった授業科目が必修科目の場合は必ず次年度に再履修しなければなりません。
- (2) 再履修する授業科目についても履修申告をしなければなりません。
- (3) 再履修する授業科目のガイダンスには、必ず出席することが必要です。
- (4) 再履修者対象の授業である再履修クラスが開講される場合があります。
- (5) 再履修する授業科目が必修科目の場合、同一時間帯に重複する選択科目を履修することはできません。

## 6. 授業アンケート

授業に対する学生の要望をくみ上げるための授業アンケートが、授業期間の最終日付近に、無記名式で実施されます。

授業アンケートの目的は、①学生の要望を教授法の工夫に反映する ②学生の予習・復習に活かせる授業に改善する ③学習教育目標の達成度を向上させることです。

各自の学修計画に沿って受講し内容理解に励むなかで生じた要望を伝えるよい機会ですので、責任をもって積極的にアンケートに応えましょう。

## 7. 履修上の一般的注意事項

- (1) 本学では、教育課程・授業科目の種類・単位数および履修方法は、卒業まで原則として入学時の学修簿（本冊子）に従います。ただし、授業科目、教育課程、履修区分等のカリキュラムの改訂や履修・試験制度等の変更によって学修簿の改正が行われることがあります。
- (2) 上級学年に編成された授業科目は履修できません。
- (3) 同一授業時間帯に、2科目以上の授業科目を履修することはできません。
- (4) 同一の授業科目がクラス分け等で複数回開講されている場合、同一科目を複数履修することはできません。
- (5) 一度合格した授業科目の成績を取り消すことはできません。また、再度履修することもできません。
- (6) 授業科目の中には、履修するにあたり前提として修得しておかなければならない授業科目や、履修順序がある場合があります。
- (7) 授業科目の中には、その教育効果や施設等により履修定員等の制限を設ける場合があります。
- (8) 年度により開講しない授業科目があります。
- (9) 授業科目の履修者や出席者が少ない場合、授業の開講を途中で中止する場合があります。

## 8. クォーター科目

授業を短期間で集中的に受講することが、教育効果を高める上で望ましいと認められる授業科目については、週2回の授業を行うことがあります。これをクォーター科目といます。クォーター科目の履修については、「履修の手引き」の「VI. 履修について」を参照してください。

## 9. 休講・補講

授業担当教員の都合に伴い、授業を休講にすることがあります。授業が休講になった場合は、補講を行います。休講・補講の連絡はUNIPAシステムにて行います。なお、休講の連絡がなく授業開始時間から30分を経過しても授業担当教員が入室しない場合は、教務課に問い合わせてください。

また、台風の接近や降雪時等の災害時等に、授業を臨時休講にすることがあります。災害時等における臨時休講については、大学のホームページでお知らせします。詳しくは「履修の手引き」の「XII. 災害時等における授業等の取り扱い」を参照してください。

## 10. 勉学勧告・進路変更勧告の基準

勉学勧告及び進路変更勧告の基準を以下の表のとおり定めています。本基準に該当する学生に対して書面での通知と併せて指導教員（チューター）による指導、保証人を交えた面談を行います。

	勉学勧告	進路変更勧告
対象学生	進級条件を満たしていない者（*）	同一学年における在籍年数が2年を超える者（*）
時 期	前期成績確定後、後期成績確定後	毎年度末の成績確定後
面 談	指導教員（チューター） × 対象学生	学科主任または教務幹事 指導教員（チューター） × 対象学生 保証人

（\*）休学の場合及び特別な事情を除く

## VI. 授業科目表

### 1. 一般科目について

薬学部で修得した知識や技術を社会で生かすためには、その土台となる幅広い教養を身に付ける必要があります。本学では、自然科学の基本概念、経済感覚、国際感覚、社会認識、技術者倫理を育むと共に、自分の視点や考えを相手に表現する能力を磨き、豊かな人間性を育てる幅広い教養教育を重視しており、表Ⅲに示す教育課程を編成しています。

### [ 授 業 科 目 表 ]

#### 一般科目一覧表

授業科目名	標準履修学年及び単位					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>◆ 外国語（必修）◆ 【5単位】</b>						
Freshman English	2					
Integrated Skills in English A	1					
Integrated Skills in English B		1				
Integrated Skills in English C		1				
<b>◆ 外国語（選択）◆ 【4単位】</b>						
Reading and Writing Skills A				1		
Reading and Writing Skills B				1		
Listening and Speaking Skills A				1		
Listening and Speaking Skills B				1		
ドイツ語1				1		
ドイツ語2				1		
<b>◆ 人間科学(必修) ◆ 【2単位】</b>						
健康スポーツ1	2					
<b>◆ 人間科学(選択) ◆ 【4単位】</b>						
学術と地域文化1				2		
学術と地域文化2				2		
哲学		2				
論理学		2				
経済学		2				
法学		2				
心理学		2				
社会学		2				
国際事情		2				
リーダーシップ論				2		
健康スポーツ2					2	

表Ⅲ 一般科目一覧表

(備考) 【 】内は各区分の卒業所要単位数を表す。



## 専門科目一覧表

授業科目名	標準履修学年及び単位					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>◆基礎科目「基幹基礎」(必修)◆【6単位】</b>						
基礎化学	2					
入門統計推計学	2					
情報リテラシー	2					
<b>◆基礎科目「基幹基礎」(選択)◆</b>						
基礎生物学	1					
基礎数理学	1					
入門情報リテラシー	2					
<b>◆基礎科目「専門基礎」(必修)◆【2単位】</b>						
科学英語A			1			
科学英語B				1		
<b>◆専門科目(必修)◆【168単位】</b>						
基礎物理化学	2					
生化学1	2					
薬学概論	2					
ヒューマンコミュニケーション1演習	1					
早期体験学習	1					
無機化学	2					
有機化学1	2					
有機化学1 演習	1					
生化学2	2					
分析科学	2					
物理化学	2					
ヒューマンコミュニケーション2演習	1					
機能形態学1	2					
薬学倫理	4					
生薬学1		2				
生命物理化学		2				
有機化学2		2				
有機化学2 演習		1				
微生物学		2				
臨床分析科学		2				
生化学3		2				
健康と栄養		2				
機能形態学2		2				
生物系実習		1				
薬剤学1		2				
生薬学実習		1				
免疫学		2				
生薬学2		2				
物理・分析科学実習		1				
有機化学3		2				
有機化学3 演習		1				
スペクトル解析		2				
有機スペクトル解析		2				
有機スペクトル解析実習		1				
生物有機化学		2				
薬剤学2		2				
環境と健康1		2				
有機化学実習		1				
有機合成化学		2				

  

授業科目名	標準履修学年及び単位					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬理学1		2				
分子細胞生物学			2			
生物統計学			2			
薬理学2			2			
疾病と病態			2			
環境と健康2			2			
薬理学実習			1			
医薬化学			2			
再生医療学			2			
製剤学1			2			
薬物治療学			2			
薬剤学実習			1			
衛生薬学実習			1			
レギュラトリーサイエンス			2			
薬剤師論			2			
臨床統計学			2			
医療人入門			2			
バイオ医薬品			2			
総合医療薬学1			2			
総合医療薬学2			2			
総合医療薬学3			2			
総合医療薬学4			2			
製剤学2			2			
疾病の予防			2			
山口県地域医療学1			2			
医療安全学1			2			
山口県地域医療学2				2		
医薬品情報学				2		
医療経済学				2		
薬事法規・社会薬学				2		
漢方概論				2		
健康ビッグデータ解析学				2		
総合医療薬学5				2		
総合医療薬学6				2		
総合医療薬学7				2		
医療安全学2				2		
患者情報学				2		
薬学臨床事前実習				5		
病院薬局実務実習					20	
薬学基礎総論				1		
薬剤師業務総論						2
<b>◆専門科目(選択)◆【4単位】</b>						
バイオ・ケモインフォマティクス			2			
放射医科学			1			
創薬化学			2			
インシリコ創薬			2			
<b>◆卒業研究(必修)◆【6単位】</b>						
卒業研究1				2		
卒業研究2					2	
卒業研究3						2

表Ⅳ 専門科目一覧表